

多発性骨髄腫の治療で レナデックス®錠を 服用される方へ

監修：尾崎修治

(徳島県立中央病院 血液内科 医療局長)



医療機関名 (連絡先)

はじめに

この冊子は、レナデックス®錠による多発性骨髄腫の治療を受けられる方を対象に、レナデックス®錠のことをよく理解し、正しい服用を心がけていただけるよう、薬の説明、服用方法、服用にあたっての注意事項、おもな副作用などを解説しています。

レナデックス®錠による適切な治療を受けていただくため、この冊子をぜひお読みください。なお、わからないこと、疑問に思ったことなどがある場合には、主治医、薬剤師、看護師に相談してください。

また、小冊子「多発性骨髄腫（MM）を知っていますか？」では、病気のこと、検査のこと、治療のことなどを解説しています。本冊子とあわせて参考にしてください。

もくじ

多発性骨髄腫とはどのような病気なのでしょうか?	4
多発性骨髄腫ではどのような症状がみられるのでしょうか?	5
レナデックス®錠とはどのようなお薬なのでしょうか?	6
レナデックス®錠の服用を始めるにあたって	7
レナデックス®錠を服用する際に注意することは?	9
レナデックス®錠服用によるおもな副作用について	10
こんな時はどうすればいい?	14
多発性骨髄腫に関連する情報が得られるおもなウェブサイト	19

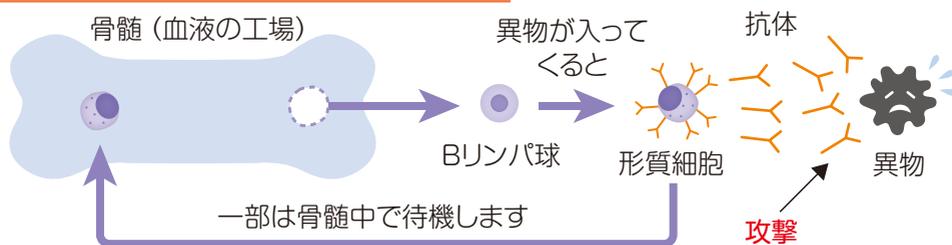


多発性骨髄腫とは どのような病気なのでしょうか？

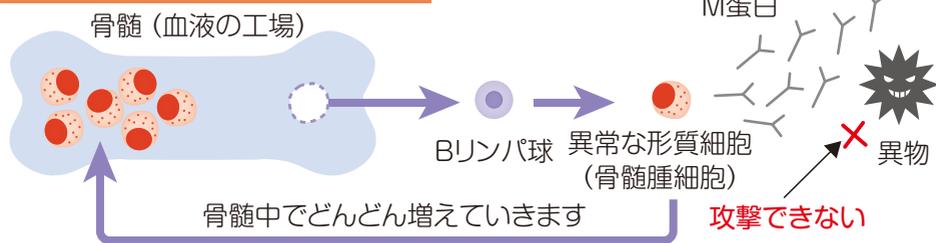
多発性骨髄腫（MM）とは、形質細胞という細胞に異常が起こった病気です。形質細胞は、骨髄と呼ばれる“血液の工場”でつくられる血液細胞のうち、白血球という血液細胞に含まれるBリンパ球が変化してできる細胞です。Bリンパ球は、体内に細菌やウイルスなどの異物が入ってくると、形質細胞に変化して抗体をつくり、異物を攻撃することで、私たちの体を守ってくれています。

ところが、多発性骨髄腫では、この形質細胞に異常が起こり（これを「骨髄腫細胞」と呼びます）、異物を攻撃する能力をもたない抗体（これを「M蛋白」と呼びます）だけをつくるようになります。多発性骨髄腫では、骨髄腫細胞が、骨髄（血液の工場）でどんどん増え続けていきます。

正常な形質細胞のはたらき（イメージ図）



多発性骨髄腫の場合（イメージ図）



多発性骨髄腫ではどのような症状が みられるのでしょうか？

患者さんによって症状はさまざまですが、一般的に、血液に関連した障害、骨の障害、体全体・臓器の障害に分けられます。

血液に関連した障害

●貧血になりやすくなる

めまい、だるい、
疲れやすい、
息切れ、
動悸、
など



●感染しやすくなる

発熱、かぜによる咳や
喉の痛み、尿路感染
症、口内炎、など

●出血しやすくなる、 血が止まりにくくなる

青あざ、
鼻血、
歯茎から
の出血、
など



骨の障害

●骨がもろくなる

骨折（腰や背中
の痛み、
など）



●血液の中にカルシウム が溶け出す

高カルシウム血症
（口が渇く、尿が異常に
増える、便秘、
ぼんやりする、など）

体全体・臓器の障害

●正常な抗体が少なくな る

感染しやすくなる
（発熱、かぜによる咳や
喉の痛み、
尿路
感染症、
口内炎、
など）



●血液の中にM蛋白が 溜まり、血液が ドロドロになる

かねんちょうどしゅうこうぐん
過粘稠度症候群
（頭痛、目が見えにくく
なる、など）

●腎臓、心臓、神経、消化器などに M蛋白が沈着する

腎障害、アミロイドーシス
（尿が減る、むくみ、不整脈、
手足のしびれ、下痢、など）



レナデックス®錠とは どのようなお薬なのでしょう？

●レナデックス®錠は、このようなはたらきをもっています

レナデックス®錠は副腎皮質ステロイドの一つで、骨髄腫細胞の増殖を抑えるはたらきがあります。またレナデックス®錠は、他の多発性骨髄腫のお薬といっしょに服用すると（併用）、そのお薬の効果を高める作用ももっていることが知られています。

●レナデックス®錠を用いる治療は、このように行います

多発性骨髄腫の治療には、レナデックス®錠をそれだけで用いることもありますが、他のお薬と併用して用いることもあります。

●レナデックス®錠は、このように服用します

主治医に指示された量を、指示された日に、シートから必ず取り出して、コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

服用する量や服用する日数は、患者さんによって違いますので、主治医の指示にしたがってください。

重要

患者さんの状態や他に服用しているお薬があるかどうか、また副作用の症状があるかどうかなどによって、服用する量や服用する日数などが変わりますので、必ず主治医の指示にしたがって服用してください。



レナデックス®錠の服用を 始めるにあたって

●以下のような患者さんは、レナデックス®錠の服用ができません

レナデックス®錠治療により、副作用があらわれる危険性が高まるなどの理由から、以下の患者さんはレナデックス®錠治療を受けることができません。

- ➡ 過去に、レナデックス®錠により過敏症の症状があらわれたことがある方
- ➡ 以下の薬剤を使用中の方

- デスマプレシン酢酸塩水和物：男性における夜間多尿による夜間頻尿
- リルピピリン
- リルピピリン塩酸塩・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩・エムトリシタビン
- リルピピリン塩酸塩・ドルテグラビルナトリウム

レナデックス®錠の服用を始めるにあたって

●以下のような患者さんは、レナデックス®錠の服用に際して注意が必要です。服用を始める前に主治医に相談してください

レナデックス®錠治療により、副作用があらわれやすかったり、その程度が強くなるなどの危険性があるため、以下の患者さんはレナデックス®錠の選択や治療を慎重に行わなければなりません。

- 感染症（特に有効な抗菌剤の存在しない感染症、全身の真菌症）にかかっている方
- 結核にかかっている方
- 単純疱疹性角膜炎の方
- 糖尿病（特にコントロール不良の糖尿病）にかかっている方
- 消化性潰瘍のある方
- 精神病の方
- 後嚢白内障の方
- 緑内障の方
- 高血圧症の方
- 電解質に異常のある方
- 血栓症の方
- 最近、内臓の手術を受け、手術創のある方
- 急性心筋梗塞を起こしたことがある方
- 骨粗しょう症の方
- 甲状腺機能が低下している方
- 脂肪塞栓症の方
- 重症筋無力症の方
- B型肝炎にかかっている方、かかったことのある方
- 褐色細胞腫又はパラグングリオーマがある、又は疑いがあると診断された方
- 腎不全の方
- 肝硬変の方
- 脂肪肝の方
- 妊婦の方
- 授乳婦の方
- 小児の方
- 高齢の方

レナデックス®錠を服用する際に注意することは？

●レナデックス®錠を服用する際には、以下のような注意が必要です

忘れずに飲む

決められたとおりに服用することはとても大切です。飲み忘れないように注意してください。



アルコールを飲まない*

レナデックス®錠とアルコールは、ともに胃の内壁を損傷するおそれがありますので、レナデックス®錠服用中にアルコールを飲むことは避けてください。



*: Understanding Dexamethasone in the Treatment of Myeloma, March 2023 Edition, A publication of the International Myeloma Foundation

決められた量をきちんと飲む

決められた量より少ないと効果がだににくいことがあります。また、決められた量より多く飲むと副作用が生じるおそれがありますので、主治医もしくは薬剤師の指示どおりに服用してください。



手洗い、うがいを心がける

病気やお薬の影響で、かぜや感染症にかかりやすくなる場合があります。特に外出から帰った時は、手洗いやうがいを心がけて、感染の予防に努めてください。



他のお薬を服用する必要がある場合は、主治医、薬剤師、看護師に相談する

レナデックス®錠との併用で、副作用が起こる可能性のあるお薬があります。他の病気でお薬を服用する必要がある場合は、主治医、薬剤師、看護師に相談してください。

レナデックス®錠 患者向医薬品ガイド
レナデックス®錠 電子添文 2024年1月改訂 (第6版)

レナデックス®錠服用による おもな副作用について

以下のような症状がみられたら、すぐに主治医、薬剤師、看護師に連絡してください

レナデックス®錠では服用によって、副作用があらわれる可能性があります。レナデックス®錠治療による副作用があらわれた際には、次のような症状がみられます。副作用は早めに対応することが大切ですので、あらかじめ、その症状を理解しておきましょう。

また、レナデックス®錠治療によって起こる可能性がある重大な副作用は以下のとおりです。これらの副作用は重症化する前に対応することが大切です。症状がみられたら、次の診察日を待たず、すぐに主治医、薬剤師、看護師に連絡してください。



眠れない、
夜中に目が覚める

不眠症



力が入らない、
脱力感

無力症



疲れやすい

疲労



かぜのような症状、
発熱

誘発感染症、
感染増悪そつあく



体がだるい、
吐き気、食欲不振

続発性副腎皮質
機能不全



のどが渇く、疲れ
やすい、尿量が増える

糖尿病



手足の感覚の
違和感

錯感覚さく



筋肉のふるえ、
しびれ

筋痙攣きんけいれん



のどが渇く、
尿量が増える

高血糖



腹痛、胸やけ、
吐き気

消化性潰瘍かいよう



強い腹痛

消化管穿孔せんこう

強い腹痛、
背中の痛み

膵炎すいえん



レナデックス®錠服用による おもな副作用について

以下のような症状がみられたら、すぐに主治医、薬剤師、看護師に連絡してください

気分の変化

精神変調*
またはうつ状態



*気分が落ち込み、やる気が
起こらない場合や、気分が高揚
したり、怒りっぽくなったり
する場合があります

ふるえ、しびれ

けいれん
痙攣



腰や背中中の痛み

骨粗しょう症



腰や背中中の痛み、 足のしびれ・まひ

せきつい
脊椎圧迫骨折



手足など骨折した 部位の痛みやはれ

ちようこつ
長骨の病的骨折



眼の痛み、 視力の低下、頭痛

緑内障



膝や股関節の痛み、 歩行障害

だいたいこつ じょうわんこつ
大腿骨および上腕骨などの
こつとう む きんせい え し
骨頭無菌性壊死



筋肉のこわばり、 筋力の低下

ミオパチー



眼のかすみ、光が まぶしい、視力の低下

こうろう
後嚢白内障



息苦しい、激しい足の 痛み、知覚のまひ

けっせんそくせん
血栓塞栓症



意識の低下、 尿量が減る

しゅようほうかいしよこうぐん
腫瘍崩壊症候群



こんな時はどうすればいい？

ここで紹介する内容は、一般的な質問と回答です。患者さんの個々の状態などにより、さまざまなケースがありますので、判断に迷う時は、主治医、薬剤師、看護師に相談し、その指示にしたがってください。

●飲み忘れてしまったら？

▶▶2回分をいっしょに飲まないでください

飲み忘れに気づいた時に、できるだけ早く、飲み忘れた分を飲んでください。ただし、次に飲む予定の時間が近い場合は、飲み忘れた分は飲まずに、次回、いつもの量をいつもの時間に飲んでください。決して2回分をいっしょに飲んではいけません。

●一度にたくさん飲んでもよい？

▶▶決められた量をきちんと飲んでください

たくさん飲むほど効くというわけではありません。決められた量より多く飲むと副作用が生じるおそれがありますので、必ず主治医の指示どおりに、決められた量をきちんと飲んでください。

●1日の服用量を2回、3回に分けて飲んでもよい？

▶▶決められた1日の服用量は、1回で飲んでください

2回、3回に分けて飲んだ場合に、効果があるかどうかはわかっていません。主治医の指示どおりに飲んでください。

●多発性骨髄腫の症状がなくなったら、飲むのをやめてもよい？

▶▶自分で判断して、お薬を飲むのをやめてはいけません

“多発性骨髄腫の症状がないから”、“飲むのが面倒だから”、“もう治ったから”、“なかなかよくなるから”などの理由で、自分で判断して、飲む量や飲む回数を減らしたり、飲むのをやめてはいけません。

レナデックス[®]錠は副腎皮質ステロイドですから、長い間服用していると、本来、自分の体（副腎皮質）がつくるはずの副腎皮質ホルモンが少なくなり、徐々に副腎皮質が縮んでしまう場合があります。このような状態で、レナデックス[®]錠の服用を急にやめたり、急に量や回数を減らすと、病気が悪化するだけでなく、体の中の副腎皮質ホルモンが足りなくなって、強い倦怠感、吐き気、頭痛、血圧低下などが生じることがあります（これを「ステロイド離脱症状」と呼びます）。そのため、自分で判断せず、必ず主治医の指示どおりに飲んでください。

こんな時はどうすればいい？

●副作用かどうか分からない時は？

▶▶自分で判断せず、主治医、薬剤師、看護師に相談してください

もし副作用であれば、早めに対応することが大切です。10～13ページのような症状があらわれた場合には、副作用かどうかを自分で判断せず、主治医、薬剤師、看護師に相談してください。

●他の病気にかかったら？

▶▶他の病気で別のお薬を飲まなければならなくなった場合には、すぐに主治医、薬剤師、看護師に連絡し、指示を受けてください

▶▶また、別のお薬を処方する先生にも、レナデックス®錠を飲んでいることをすぐに伝えてください

他の病気にかかり、別のお薬を飲まなければならなくなった場合には、すぐに主治医、薬剤師、看護師に連絡し、飲んでよいかどうかの指示を受けてください。また、別のお薬を処方する先生にも、レナデックス®錠を飲んでいることをすぐに伝えてください。レナデックス®錠とのお薬との併用で、どちらかのお薬（もしくはどちらのお薬も）の効果が下がったり、逆に効果が強すぎて体によくない症状が生じる場合があります。

●生活習慣で気をつけることは？

▶▶日々の体調の変化に注意し、いつもと違ったり、気になることがある場合には、すぐに主治医に相談してください

日々の体調管理、感染症の予防（うがい、手洗い）、骨に負担をかけない、適度な運動（散歩など）、水分を多めに摂る、栄養バランスのとれた食事をする、などを心がけ、レナデックス®錠服用中はアルコールを飲むことは避けてください*。もし、いつもと違ったり、気になることがある場合には、すぐに主治医、薬剤師、看護師に相談してください。



* : Understanding Dexamethasone in the Treatment of Myeloma, March 2023 Edition, A publication of the International Myeloma Foundation

MEMO



多発性骨髄腫に関連する情報が 得られるおもなウェブサイト

国立研究開発法人 国立がん研究センター

がん情報サービス

<https://ganjoho.jp/public/index.html>

公益財団法人 難病医学研究財団 / 難病情報センター

難病情報センター

<https://www.nanbyou.or.jp/>

公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構

がん情報サイト

<https://cancerinfo.tri-kobe.org/>